

5月31日から6月13日まで、〇〇高校に教育実習生として務めました。当初はあまり教育実習が始まるという実感もあまりありませんでしたが、初日から教職員会議で自己紹介、担当クラスのHRで自己紹介と質問コーナー、実習生同士で授業の形態の相談をするなど、着々と実習生としての実感が生まれていきました。この実習期間中で「自分のためになることを学ぶ」という感覚を忘れていたほど、慣れない緊張感の中で1日目2日目と過ごしていましたが、情報科を担当して下さった3人の先生との打ち合わせの中で、授業展開のスタイルや生徒との接し方のコツなどをアドバイスしていただき実習期間の中で行う授業の理想形が浮かびました。自習当初から高校2年生と3年生を担当させていただけることとなり楽しみにしていましたが、最初の1週間で担当した授業は座学系のものではなく、実習をメインとしたものでした。高校2年生であればPowerPointを用いてプレゼン用の資料を作り、その資料を用いてグループ内でプレゼンをするといったものでした。実習として手伝えることはあまりないものの、生徒の作った資料内容で生徒とのコミュニケーションを生むなど、絶好のチャンスであると捉えました。その目標を立ててからというものの積極的に生徒に話しかけては、生徒に「この実習生と話すの楽しい！」と思ってもらえるようにしました。それは実習のみならず座学系の授業をした時にも好印象で授業に参加してもらいたいと考えたからです。

対する高校3年生ですが、3年生はExcelを用いたグラフづくりと考察、そこからGoogle blocklyというプログラミングソフトを用いてプログラミングの基礎的な練習をするといったものでした。この授業内容は高校2年生のものとは違い、生徒からの質疑応答がメインとなるもので、いかに生徒の目線に立って生徒に分かりやすく伝えることができるかということがコツだと考えました。なので専門的な用語はできるだけ使わず高校生が理解できるワードや専門的な用語の説明なども踏まえながら説明を行いました。そのような形で最初の1週間は難なく授業をすることができていましたが、中々前進できていなかったのが座学系の授業の資料作りです。高校2年生に対して座学系の授業をすることは決定しており単元は「個人情報」で、研究授業も同単元でした。ただ授業をするだけでは生徒としても面白くないし、何か授業として変わり種は必要なのではないかと考えていました。そのような中で情報科の先生からいただいた案として「Comment Screen」というものがありました。Comment Screenはオンラインイベントや授業を盛り上げることができるツールで、コメントやリアクションをスクリーンで流すことができプレゼン中に聴衆のコメントをリアルタイムでディスプレイ上に表示することができるものです。これを授業に導入しようと思った経緯には、普段から引っ込み思案で中々意見が言えない生徒でも気軽に意見を言えるようになるのではないか、という狙いがありました。実際に授業をした際に、「今日はComment Screenという機能を使ってみます！」と言い、実際に生徒にも試してもらおうと、「面白くてコメントしやすい」という新鮮なリアクションが見受けられました。また、個人情報とSNSを絡めた授業を展開することで高校生にも馴染み深い内容に変化させ、興味や関心を惹くような内容に仕上げました。個人ワークやグループワークでは実際に起こったSNSの事件の事例をもとに授業内容と絡めた発問を組み込み、数人にそれを発表してもらおうという展開内容にしました。その際にも生徒の発表内容に対するフィードバックを欠かさずに行い、生徒の回答内容が適切なものであるという自信を持たせるように働

きかけました。

研究授業までの練習段階で自分としては出来の良い授業だと思っていましたが、先生方からはフィードバックをいただくのでそれを元に授業内容を変化させ、生徒が予想できないような意外性のある知識などを組み込んだ授業に仕上げました。

そして研究授業本番、予想だにしないトラブルで授業冒頭の10分間パソコンが思うように動かず、自分自身もどのように対処しようかと悩みましたが、何とかパソコンが動かなくても教えることができるような内容から優先して教えました。少しするとパソコンが正常に作動し始め、ようやく予定していた形態の授業へ移ることができました。そこからの授業内容は練習通り上手く進めることができ、生徒へ対する発問を組み込みながら Comment Screen を活用し生徒を授業に参画させることに重点を置いて授業を展開していきました。研究授業は無事終了し、授業を見に来てくださった先生方へフィードバックをいただきに行ったり、担当したクラスへ授業評価アンケートを行いに行きました。先生方からいただいたフィードバックには、「Comment Screen をもう少し生徒が自由に意見を交流させることができるツールとして使用しても良い」や「もう少し情報の教員だからこそ教えることができる知識をもう少し取り入れても良かったんじゃないか」などのアドバイスをいただきました。自分では納得できる授業だと思っていましたが、教員の方たちから見るとまだまだ改善の余地があるのだなと思い、実際に教員になった際には十分に活かすことができるアドバイスをいただける貴重な機会となりました。

また、生徒からの授業アンケートの内容ですが、「声が聞きとりやすく、授業の進行スピードもちょうどよかった」や「授業内容が分かりやすく、しかも面白かった」など好評を多くいただくことができました。中には「ぜひ教員になって情報を教えてほしい」と言ってくれる生徒もあり、自分が実習期間中で培ったものが十分に発揮できていたように思えました。生徒にとって楽しく興味の沸かせることができる授業をできたという点においては良い授業だったと思い、有意義な研究授業になったと一安心しました。

次に、担当クラスについて述べます。担当クラスは高校2年生のスポーツクラスで、元気のいい生徒ばかりでした。当初はスポーツクラス特有の雰囲気にも上手く馴染めませんでした。体育祭準備を通してコミュニケーションを取る機会が増えていき生徒とも雑談のような笑い話もできるようになっていきました。そこから少しずつ生徒との関係性が良くなっていき、いつしかこのクラスを離れることが寂しいと思えるようになりました。そうして迎えた最終日、最後のHRでどのようなことを喋ろうかと考えていた中で、スポーツクラスの生徒に最も大事してほしい信念を伝えようと思ひ喋りました。その最中も生徒は誰一人として目を逸らさずしっかりと顔をみて聞いてくれました。自分は実習生ではあるものの、教師になり自分の担当したクラスの生徒へ伝えたいことを伝え、それを真剣に聞いてくれる生徒がいた時にどれだけ誇らしい気持ちになるだろうと思ひました。これは実習における大きな気付きだったと言えます。

最後に、実習期間を通して多くのことを学びそして失敗をしました。しかし、この2週間は私にとってかけがえのないものであり、貴重な時間でした。この実習期間中に学べたことを今後の人生でも活かすことができるようにできればと思います。